

第3回 楽しいつどい

～ 和楽器の音色を感じる ～

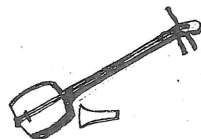
12月3日(月) 関西大学文化会邦楽部の学生さんを迎えて、楽しいつどいを行いました。

今回は、和楽器をより近くで見聞きし、落ち着きやしっとりとした雰囲気を感じさせたいと考えて学年ごとに集うことにしました。学生さん方には3度演奏してもらうことになりましたが、年齢によって受け止め方や興味の様子が違うことを「楽しかったです」「かわいかったです」と喜んでもらえました。

箏、三絃(三味線)、尺八を実際に見たり、音色を聞くのは初めての子どもがほとんどだったと思います。中には、テレビ等で見たことがあって「知ってる!」という子もいましたが、ホールの真ん中に広げられた大きな赤い毛氈の上の2面の箏を、何が置かれているんだろう?と神妙な面持ちで見つめながら席づく子どもたちでした。

学生さんを紹介した後は、それぞれの学年に合わせた和楽器の説明や曲目を紹介をしながら、楽しいつどいを進めていきました。

1. 六段の調 . . . 箏
2. さくらさくら . . . 三味線
3. 雅美鳥末廣(わかみどりすえひろ) . . . 長唄
4. いつも何度でも . . . 尺八
5. 関西大学幼稚園こどものうた . . . 箏



1. . . . まずは楽器の名前を教えてくださいました。年長児は「お琴!」という子がいましたが、年中と年少児は、知っている子はいなかった様で、教えてもらってから「お琴、知ってる!」という年中児。年少児は、学生が「お琴です。」と教えてくれた後で司会者が「なんていう名前だった?」と子どもたちに尋ねると、「おことです!」と。“おことです”という名前だと思ったようで、その可愛さに思わず笑ってしまいました。曲はどの学年も驚くほどよく聞いていました。そして、聞き終わった後に「長次郎(お寿司屋)に行った時にきいたことある。」という年長児の声が上がったのには、参りました。
2. . . . これ知ってる!という声や顔がどの学年でもチラホラありましたが、演奏の前に3台が調弦するために音を出している様子を、食い入るように見ていました。
3. . . . 長唄を一番よく聞いていたのが、年少児でした。中には首を縦に振って調子をとっている子がいて驚きました。
4. . . . 年長児からは、「フルーツ!」という声が出たので、学生が英語では“バンブーフルーツ”ということを知っていました。また、竹で作られている話には興味津々でした。
5. . . . 曲名を伝えずに演奏を始めてもらうと、引き付けられるように聞き入り、「関大幼稚園のうた」だとわかった時点で、笑顔がどんどん増えていきました。そしてどの学年も、箏が奏でる音色を邪魔することなく、小さな小さな声で口ずさむ姿には感動しました。



木材や竹、動物等、命あるものを利用して作られている和楽器。自然の命をもらってできた楽器の音源は、自然からの贈り物のように思えます。和楽器から出される自然の音は、西洋音楽のように楽譜に基づいて正確な音を追求することよりも、演奏方法や楽器自体の素材の特徴から、音の幅が広いことが魅力となっているようです。

子どもたちには理解しにくいかもしれませんが、和の心である「わび」「さび」や「寂しさ」「はかなさ」「命の叫び」等を表現できる和楽器。心に響く音、自然な音の優しさや柔らかさが子どもたちに伝わるといいなあと思いました。

幼稚園には、和太鼓があります。一年に一度、「ソーランしぶき」の時に和太鼓の迫力に出合うこともあります。迫力とお腹に響くような音、掛け声やバチによる身体全体で表現する演奏にもいつかふれさせてあげたいと思いました。